

平成21年度インターンシップ実施報告 ——貫したキャリア教育を目指して——

The Internship Program in 2009,
For Career Education.

山庄司志朗*1, 浦田喜彦*2, 小川敏夫*3, 小嶋卓*4, 小林久理眞*5
青島偉夫*6, 兼子和宏*6

Shiro YAMASHOJI, Yoshihiko URATA, Toshio OGAWA, Takashi KOJIMA, Kurima KOBAYASHI,
Hideo AOSHIMA and Kazuhiro KANEKO

Abstract: Ours Internship has been introduced into the curricula of Shizuoka Institute of Science and Technology(SIST) since 1999. This report presents the discussion about the preparation, the organization and the results of the internship program conducted in 2009. Ours program has been started from 1999. In 2009, sixty-two companies in the western part of Shizuoka prefecture proposed this program by providing their own internship programs for over one hundred seventy students. Seventy-nine students participated in the programs. The results of this program over ten years are summarized and its future prospects are presented.

1. はじめに

本学のインターンシップは、平成11年度に試行を行い、平成12年度から授業の一貫として単位を付与して実施している。履修する学生も少しずつ増加し、企業との相互理解も深まってきている。このように、この授業は人材育成の手段として周辺企業にも理解が深まり、確実に定着しつつあると言えよう。また、本学のキャリア教育の中で重要な地位を占める事業となってきた。

本報告は、平成21年度夏期に静岡理工科大学において行われたインターンシップに関して、事業計画、受入企業に対する依頼、参加学生の募集、実習内容、参加学生の成績評価、実習結果の総括など、各段階における経過および結果をまとめ、本事業によって得られた成果や問題点を明らかにし、来年度以降の実施に向けた改善に資することを目的としている。

特に、学生および受入企業からの報告書を詳細に分析し、学生がインターンシップにおいてどのような内容の実習を行い、成果として何を得たか、また、企業による学生および実習内容の評価などを検討している。さらに平成11年から平成21年までの11年間のインターンシップ実施結果の総括的なまとめおよび来年度以降のインターンシップに関する展望についても述べる。

2. 平成21年度インターンシップの計画

昨年度の反省点として、以下の点が挙げられた。

- ① 受入企業数が過去最高の89社、受入可能実習生数は184名に達したが、参加学生数は79名であり、例年より低い参加率になった
- ② 「おとなしい」、「元気がない」など積極性や会話能力のなさを指摘された学生がいた
- ③ 受入企業から、学生の実習内容や到達度が低かったという評価が挙げられた

平成21年度のインターンシップは、これらの問題点を改善するため、以下の事業を取り入れるようにした。

- ① 企業側への受入希望調査を昨年度同様4月とした
- ② 企業からの全ての申込み作業、実習報告書および評価作業などもWeb上で入力可能とした
- ③ 学生からの書類提出や手続きを主にキャリア支援課で取り扱い、挨拶や言葉遣いの指導を行った

これらのことから、事務的作業の効率化と簡便化を図りながら、学生の積極性の向上と意欲の喚起を目指し、より高い教育効果を得られるインターンシップの実施を目指した。

3. 受入企業への協力依頼

地域社会との密接な連携を特色とする本学の教育の中にあつて、インターンシップは、地域産業との連携による地域に役立つ人材の育成、地域の企業や地域社会との交流の推進などの観点から、重要な役割を負っている。それ故、協力依頼企業の選定にあたっては、過去10年間の受入依頼の発送状況やこれまでの就職状況などを十分に考慮した。選考の末、4月10日には大学周辺の企業467社に対してインターンシップ事業の協力依頼を実施した。

その結果、平成21年度は、62社の企業から62の実習テーマについて、受入の申し込みがあった。これは過去5カ年で最も少ない受入数であり、昨秋から続く景気悪化の影響を顕著に受ける形となった。受入実習生の総数は110名であり、これも昨年度の60%に相当する低い数字となった。

4. 参加学生募集と派遣企業の決定

5月初旬、全学学生に対して、事前研修およびインターンシップ実習への参加、その後の報告書の提出と報告会および事後研修への参加なしには単位の取得ができないことを告知した。その上で、インターンシップ希望者について5月12日に第1回事前研修を行い、その後3回事前研修を実施した。実習希望学生と派遣企業の決定に当たっては、受入企業側から提示された「実習テーマ」について、学生がこの実習内容をよく検討した上で企業を選定し、それを受け決定した。しかし、希望学生が実習定員を上回った企業については、学生の意欲や専門分野と実習内容の関連等を考慮して選考を行い、派遣学生を決定した。この

2009年11月24日受理

*1 インターンシップWGリーダー(物質生命科学科), *2 機械工学科, *3 キャリア支援委員会委員長(電気電子工学科), *4 総合情報学部, *5 物質生命科学科, *6 キャリア支援課

ように、極力学生の希望が優先されるよう配慮した。

実習希望学生と派遣企業との間で実習内容についての調整を行ったのち、36社の企業に63名の実習生を派遣することとなった。昨年度が53社79名であったことから、いずれも昨年度比を大幅に下回った。

実習生を派遣した企業ごとの実習期間、派遣実習生の人数などの一覧を表1に示した。また、表2および表3には、学年別および学科別の実習生数の内訳および受入企業の地域別内訳を示した。

表1 実習生受入企業一覧表(企業62社、テーマ62、募集人数110名、実習学生数63名)

No.	事業所名	実習地	実習テーマ	実習期間	日数	受入人数	実習人数
1	松本印刷株式会社	吉田町	印刷工程の把握	8/24-9/4	10	2	2
2	化工機プラント環境エンジニアリング株式会社	袋井市	下水処理技術の基礎と下水処理施設維持管理の実務	8/31-9/11	10	2	2
3	株式会社キャタラー	掛川市	未定(学生の専攻により決定)	8/17-9/18	10	2	
4	株式会社コーリツ	浜松市	設計から設備保全まで幅広い職務内容を抱える中で自分の適性を計る	8/20-8/27	5	1	1
5	株式会社遠州日石	浜松市	接客ならび販売基礎		10	3	
6	アイティ・インターナショナル株式会社	静岡市	ITシステム構築、Web動画配信、動画コンテンツ企画・制作及びWeb制作	8/3-8/17 8/17-8/28	10	2	2
7	エズカ工業株式会社	磐田市	機械設計:CADによる作図、完成品検査	9/8-9/18	9	1	1
8	浜松ケーブルテレビ株式会社	浜松市	ケーブルテレビ業界への理解を深める	9/1-9/11	9	1	1
9	株式会社遠鉄百貨店	浜松市	売場実習	8/19-8/25	5	3	3
10	袋井市役所	袋井市	未定	8/17-8/28	10	3	3
11	NSKワーナー株式会社	袋井市	新たな自己の発見	9/9-9/22	10	3	2
12	株式会社エービーアイコーポレーション袋井工場	袋井市	微生物を用いての発酵実験	8/17-8/28	10	2	2
13	ナンヨー株式会社	磐田市	鋳鉄の材料試験業務	9/7-9/17	6	2	2
14	株式会社増田鉄工所	富士市	CADデータの作成	8/3-8/11	9	1	
15	株式会社エヌエステイー	浜松市	電子機器製作における、基本的なハンダ・圧着作業や簡単な試験業務。	8/18-8/28	9	1	
16	株式会社アイゼン	浜松市	機械加工と品質管理	9/8-9/18	7	1	1
17	株式会社メカワールド	磐田市	省力化装置の組立	9/14-9/23	10	2	
18	株式会社メルコ	磐田市	金型設計製作	8/18-8/29	10	6	
19	社会福祉法人明和会 あきは寮	袋井市	あなたの心やさしい気持を生かしてみませんか	8/10-8/14 8/24-8/28	5	3	3
20	ポーラ化成工業株式会社袋井工場	袋井市	化粧品の品質管理	9/14-9/18	5	1	1
21	三明機工株式会社	静岡市	物づくり一連の流れ(設計から組立・ロボット制御まで)を体験下さい。	8/7-9/8	10	3	
22	株式会社タニコー	磐田市	製造効率改善をさまざまな視点から検討する。	9/14-9/23	10	2	
23	株式会社汐見製作所	新居町	治具の設計・製作	8/19-8/28	8	3	2
24	浜ニペイント株式会社	浜松市	木工用塗料の検査及び塗装	8/18-8/22	5	1	1
25	大和鍛工株式会社	掛川市	鍛造品製造工程の補助と実習体験	9/14-9/18	9	2	
26	株式会社ジャパン・ミヤキ	浜松市	機械加工および測定がどのようなものか体験をする。	9/8-9/18	9	2	
27	岡本プレス工業株式会社	浜松市	自動車ボデー関係のプレス・溶接・塗装・組立に関する生産技術		10	1	
28	ASTI株式会社	浜松市	学生さんの専攻に応じてご相談致します。	9/1-9/14	10	1	1
29	高丘電子株式会社	浜松市	手作業によるもの作りの世界 真空管の魅力	8/17-8/28	10	2	
30	大学産業株式会社	浜松市	現状では与えられた業務を楽しく行う	8/10-8/25	12	1	1
31	社会福祉法人明和会	袋井市	知的障害者との交流を通して福祉への理解を深める	9/8-9/19	12	2	3
32	羽立工業株式会社	湖西市	射出成形及び成形部材組立作業	9/8-9/23	9	2	
33	ミネベア株式会社袋井工場	袋井市	材料元素分析	8/18-8/28	9	1	1

34	矢崎化工株式会社	静岡市	無人搬送車の組立実習・福祉介護用品の開発及び設計に関わる業務	9/14-9/25	9	1	1
35	NNP電子株式会社	磐田市	電子制御機器の試作品実験データ取り・検査	8/18-8/31	10	1	
36	株式会社オーミ	磐田市	日本を支える物づくり	9/9-9/22	10	1	
37	菊川市消防本部	菊川市	消防人としての基礎知識と技術の習得	9/8-9/10	3	1	1
38	鈴与株式会社	静岡市	物流の体感と自己の成長(仮)	8/18-8/21	4	2	2
39	富士ゼロックス静岡株式会社	静岡市	印刷物の企画作成	9/8-9/18	9	2	2
40	株式会社ドリームウェーブ静岡	静岡市	放送・インターネット事業の現場を経験	8/17-8/28	10	1	
41	コープしずおか	静岡市	コープしずおかの事業内容及と学生が抱く事業イメージのアンマッチを防ぐ	8/26-8/31	5	5	3
42	株式会社小楠金属工業所	浜松市	金属を削ることに関する実習	8/24-9/4	10	2	
43	やまと興業株式会社	浜松市	商品の開発から納入までの流れを学ぶ	9/7-9/18	10	3	1
44	株式会社クリアテック	磐田市	会社を知る、会社の仕組み、仕事の流れや各業務の役割とその関連を知る。	8/18-8/31	10	2	2
45	ニチアス株式会社袋井工場	袋井市	製造と生産技術に関する業務の補助	8/24-9/18	10	2	1
46	株式会社藤田鐵工所	掛川市	浸炭焼入れを施したクランクシャフト、コンロッドの品質検査	9/7-9/14	5	3	1
47	株式会社榛葉鉄工所	掛川市	オートバイマフラーの製造工程	9/16-9/24	4	2	2
48	浜松鉄工株式会社	磐田市	部品の流れで、機械加工と品質管理の関連を身をもって習得する。	8/18-8/29	9	2	2
49	株式会社エフ・シー・シー竜洋工場	磐田市	しっかり見る。	9/7-9/11	5	2	
50	日星電気株式会社	磐田市	回転炉の組み立てなど	8/7-9/18	10	2	
51	磐田信用金庫	磐田市	地域金融機関としての信用金庫の使命と役割	8/3-8/7	5	3	3
52	テイボー株式会社	浜松市	マーキングペン先の製造及び検査	8/24-8/28	5	2	2
53	株式会社アーレスティプリティック	浜松市	ものづくりの流れ	8/19-9/1	10	1	1
54	株式会社電業社機械製作所	三島市	風水力機械の製造	8/19-9/1	10	1	
55	株式会社アクティ森	森町	体験型観光施設において接客する中でサービス業の実際を学ぶ	8/6-8/19	14	2	
56	天方産業株式会社	浜松市	マイコンを使用したソフト作成	8/6-8/19	10	2	
57	大和染工株式会社	浜松市	製品の作られる過程を見て感じる。	8/24-8/28	5	3	3
58	株式会社ユニテック	静岡市	未定	8/17-8/21	5	1	
59	牧之原市役所	牧之原市	産業雇用支援ネットワークの会議に向けて	8/17-8/21	5	1	1
60	ヤマハ株式会社	浜松市	6月以降HPに掲載【公募】				
61	矢崎総業株式会社	裾野市	全9テーマから選択【公募】				
62	東日本旅客鉄道株式会社	東京都	就業体験コース、経営課題提言コースから選択【公募】				

表2 実習学生の学年・学科別人数

学科	1年	2年	3年	4年	計
機械	0	0	9	0	9
電子	0	3	5	1	9
情報	0	0	19	0	19
物質	0	4	22	0	26
大学院	0	0	0	0	0
計	0	7	55	1	63

表3 実習企業地域別内訳

市名	人数	市名	人数
袋井市	18	吉田町	2
浜松市	16	新居町	2
磐田市	10	牧之原市	1
静岡市	10	菊川市	1
掛川市	3		

表4 インターンシップ 事前・事後研修会 出席者状況

学科	第1回	第2回	第3回	第4回	報告会	第5回	計
機械	24	16	10	9	8	9	76
電子	19	16	15	10	8	9	77
情報	34	24	22	18	17	19	134
物質	33	33	32	29	24	26	177
大学院	0	0	0	0	0	0	0
合計	110	89	79	66	57	63	464

表5 インターンシップ実習テーマの分野別分類

<p>【機械設計・開発などの分野】 機械設計. CAD による作図. 受注生産機の機構・開発設計. 試作機の性能確認. 自動車部品のモーター駆動化をにらんだ先行技術開発. 図面検証→試作→評価. 製品開発の補助作業. 鍛造. 金型の設計・製作現場を学ぶ. 開発・設計現場において開発業務を体験. 3次元CADを使ったパーツモデリング. エレベータ部品の設計. 開発品の試作. 製作. 評価. 健康関連機器の開発補助.</p> <p>【生産・機械加工・試作・もの作りなどの分野】 機械加工実習. クラッチディスク摩擦材の抄造作業. 自動車・オートバイ・農業機械の精密部品を切削加工. マシニングセンタによる製作. ワイヤ放電加工. オートバイマフラーの製造工程. 塑性加工(鍛造, 熱処理作業工程). 非鉄金属の各種加工. NC加工汎用機の体験. 金型設計→加工→仕上げ→射出成形の体験. パイプ曲げ, ロウ付け, 溶接, 出荷等. NC旋盤, マシニングセンタ, ホブ盤. 細穴放電加工. 洗濯機の部品製造から組立作業まで.</p> <p>【検査・測定・実験などの分野】 完成品検査. 画像処理装置. 加工条件設定のための測定分析. 試作機の性能確認. 2輪車用ショックアブソーバのテスト. エレベータ関連部品の品質調査. ショックアブソーバの試作組立, ベンチテスト. 自動車部品の性能試験. 品質管理及び試験活動のサポート. フッ素樹脂製チューブ・ウレタン製チューブの押し出し条件確立. 位置決めXYテーブルの評価実験. 自動車部品の振動特性測定. CAEによる振動解析. 金属疲労分析. プレス製品の性能評価. 実験データの測定と理論解との比較.</p> <p>【電気・電子関係の開発・実験などの分野】 工場内各種機器の電力集計及び分析. 工場内照明器具, 空調機器, 動力機器の使用電力集計及び分析. 電子制御機器の試作品実験データ収集. 超音波応用機器の開発設計. AutoCADによる電気回路の設計. 高速精密送り装置のモーター及びドライバーの特性解析. 微細認識用工学系における照明の解析. 電磁部品の評価検査. 各種回路の計測制御. レーザー干渉計を使用した変位測定. 太陽光発電システムの取付実習.</p> <p>【物質科学関係の開発・実験などの分野】 微生物応用による開発試験. 汚水浄化システムの理解. 水処理施設フローの習得と運転管理. 電子顕微鏡取扱業務. 環境計量における, 試料の前処理. 有機合成による香料分質の合成・精製. 化粧品の品質管理. FeNi合金の磁気特性調査. し尿の各処理工程のシステム管理と作業実習. 銅合金の透過電顕による組織観察. 緑茶カテキンの分析・整理. 水質分析.</p> <p>【情報関係などの分野】 図書館業務全般. エレベータ電気手配自動化ソフト作成. 物流業務と情報システムの現場実習. パソコンデータ入力. ITシステム管理, ユーザーサポート等. PC機器類の</p>
--

<p>研究指導. インターネットを使った情報収集. ワード・エクセルなどの応用. 市内の観光スポットの写真撮影や資料収集・ホームページの作成. 3次元CADソフトと遠隔ネットワークシステムの習得. データ収集プログラムの作成. データベースソフトの作成. Linuxのリアルタイム制御. 発信用ソフトのデモ用サンプル制作.</p> <p>【企業経営・管理などの分野】 接客サービス. 本社として各支店との事務連絡業務. 接客販売. 放送・番組制作における技術部門の仕事. 現場見学. 実習(配管, リフォーム, 不動産). PR・広報等. 社会人になるための基礎教育の体験. ベンチャー企業の経営現場. 作業工程管理. 新製品のマーケティング.</p> <p>【福祉活動・団体活動などの分野】 消火・救急訓練, 消防機材点検等. お札や御守の授与, おみくじや護摩木のお授け補助, 参拝者観光者に対するサービス. 施設内外の整備(窓拭き, 草刈り, 押入れ掃除等), 重度障害児(者)の介助, 散歩・制作活動等の介助. 市民参加の地域福祉活動.</p>
--

5. 事前教育について

前述したように, 5月13日から4回にわたり事前研修会を開催し, 基礎的必要事項や心構えなどを説明した. 第1回事前研修ではインターンシップの概要とインターンシップに参加する上での考え方や心構え, 履修等について説明を行った. 第2回事前研修は「社会人とは一仕事・働くことの意義」について講義を行い, インターンシップそして社会人となるための心構えを学習してもらった. 第3回目は昨年度の実習生である3名の4年生にインターンシップでどのようなことが体験できたのか, また参加する上での考え方や心構えについて話してもらった. 続いて, 本学キャリア支援課から, 業界や企業についての基礎知識について説明を行った. 第4回目は実習直前の注意事項の説明を行い, 「意欲と積極性を高める」ことに関してできるだけの注意を喚起した.

このように, 4回にわたる事前研修によって, 明確な目的意識を持った学生を実習先に送ることができたと考えている. 事前研修への参加者数を表4に示した.

また, 本年度も各事前研修をビデオに収録し, これを本学図書館のDVDライブラリーに登録した. このことで, 事前研修当日に実験実習やその他の用事によって参加できなかった学生も, 後日DVDを見て, 内容に関するレポートを提出することによって, 事前研修を受けたと認定されるようにした.

第1回事前研修参加者110名の内63名が企業実習を行うこととなった. この人数から実習参加率は57.3%となり, 昨年の42.9%, 一昨年の55.1%と比較して平均的な参加率であった.

6. 受入企業数と参加学生数の推移

インターンシップの実習を行うにあたって, まず本学と実習生受入企業との間で“覚え書き”を作成した. つまり,

双方の義務や責任を明らかにし、万一の場合に備えるため実習生の受入に関して大学および企業の双方が遵守すべき事項を確認するため、その上で双方が署名捺印した。

また、学生は実習に先立って、参加申込書の提出とともに助言教員の承認をうけることになっている。これは本学教員への連絡だけでなく、学生が自分から参加の意思を示すことで、キャリア教育への参加の機会を増やすためでもある。

インターンシップ実習は、8月7日から9月23日までの本学の夏期休業期間中に各企業において行われ、滞り無く終了することができた。各事業所における実習期間中には、インターンシップに対する協力の御礼と学生の実習状況の視察を目的として、受け入れ企業に担当教員が出向いて、実習の受入担当者と面談を行った。

ここ3年間に各受入企業等において実施されたインターンシップの実習テーマについて分野別に分類したものを表5に示した。本学でインターンシップを実施した10年間の受入企業数、実際に実習を実施した企業の数、募集

学生数、参加学生数、単位取得学生数の変化を図1に示した。昨年度まで受入事業所数および募集実習生数は年々増加する傾向にあったが、本年度は企業を取り巻く不況の影響により、実習生の受入れが困難な事業所が多く、近年の状況を大幅に下回った。11年間の参加学生の累計は700名以上となった。

参加学生の学科別内訳を図2に示した。本年の傾向は、物質生命科学科の参加学生数が昨年の6名から26名へと前年の約4倍に達したことである。学生の多くは、化学系・バイオ系・食品系の実習内容を希望したため、一部の企業への応募が集中した。選考の結果、大半の学生は当初希望していなかった実習内容を行うこととなったが、それでも大半の学生が実習に参加したのは、就業体験を通じて働くことの意義を感じたいという意気込みが強かったものと考えられる。なお、実習先の業種が偏っており、希望する分野を活かせる実習を体験しなかったという意見は本年度も多く、継続して解決すべき課題となっている。

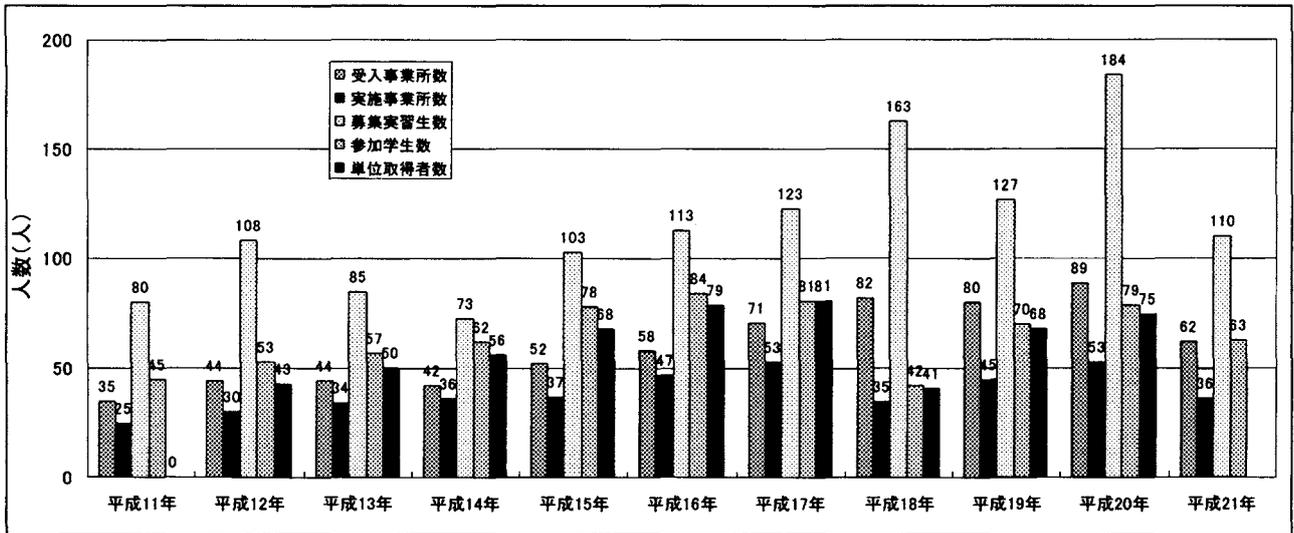


図1 受入企業等の数および参加学生数の11年間の変化

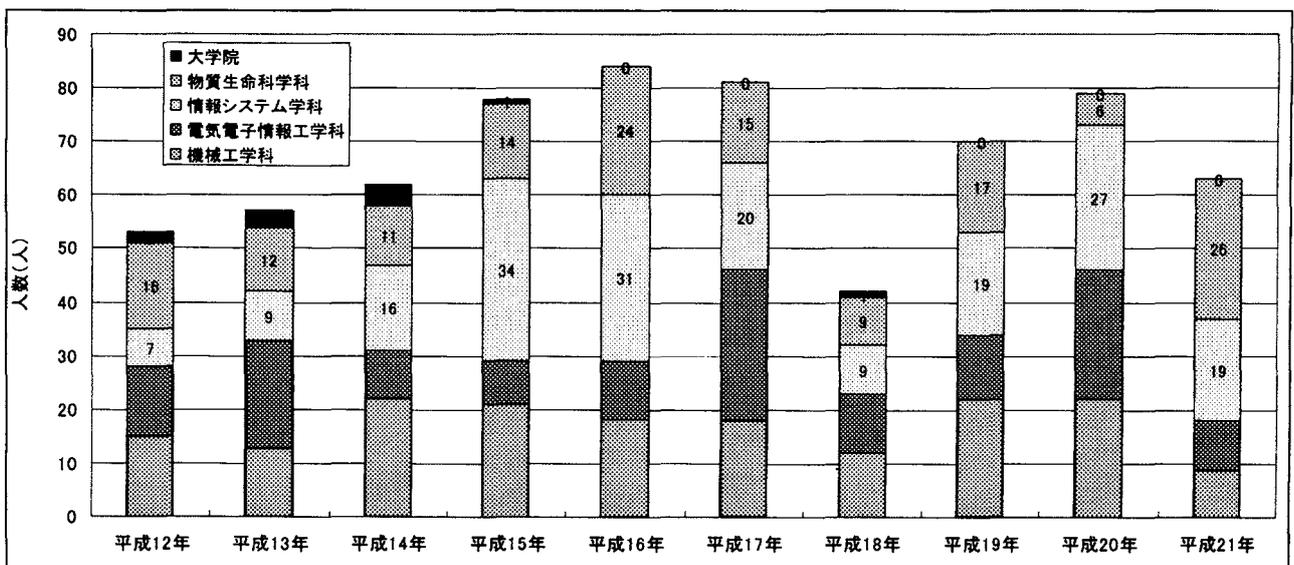


図2 参加学生数の学科別内訳(10年間の変化)

7. インターンシップで学生は何を得たか？

以下では、学生の実習報告に基づいて、実習によって得られた成果、実習を行った感想、実習に関する反省などについてまとめた結果を報告する。

7.1 実習内容

学生が実際に行った業務内容の詳細を事項別にまとめ、よく行われていた主要な業務内容を図3に示した。「製作、組立、加工」と「実験、測定、試験、分析」の項目が並んで14.8%と最も高く、次いで「営業、接客、販売」の11.5%、「福祉関連業務全般」の9.8%が続く。今年度1位の2項目は昨年度も順位が高かったが、「営業、…」と「福祉、…」の項目は昨年度の順位は高くはなかった。これは明らかに景気動向の影響により受け入れ先における製造業の比率の低下に関連した現象と見られる。このような状況がどれほど続くのかについてはキャリア支援というインターシップ本来の目的に直接関するので注目をしていく必要がある。

7.2 実習によって得られた成果

「実習の成果」についてまとめたものが図4である。学生からみた大きな成果は「人との付き合い方、会話の重要性」と「企業や職場の雰囲気があった」が9.4%、次いで「イメージしていた業務と実際との違い」の8.8%、「慎重かつ正確な作業の重要性」、「安全問題の認識」などがあげられる。学生が体験して得た成果が多岐にわたることはこれまでどおりであるが、「人との付き合い方、…」や「イメージ…」が高順位になった背景には実習内容の変化が影響しているものと考えられる。この結果についても今後の動きを注視すべきである。

7.3 実習に関する感想

「実習に関する感想」をまとめたものが図5である。実習内容に関する感想としては「貴重な体験ができ、非常に勉強になった」が17.1%と高い割合となった。次いで「実

習期間は充実していて短く感じた」、「見聞きするものすべてが新しかった」、「充実感、達成感、終わったときの開放感」などの回答が多く、学生にとって大きな刺激となることが伺える。自由記述の短い感想文のほとんどがこの制度や成果を非常に肯定的にみており、未体験のことへの挑戦に感動した様子である。これからインターシップそのものがきわめて大きな意義を持つことを再確認することができる。ただし、学生の肯定的感想の先にはさらに充実させてより多くの人に参加して欲しいという注文があることも指摘しておきたい。

7.4 実習に関する反省

実習に関する反省として記載された事項を整理したものが図6である。その中で「もっと質問をするべきだった」が13.4%と最多の回答となっている。次いで「うまく話や説明ができなかった」、「基礎的、応用的な知識が足りなかった」、「自ら考えて仕事をするのができなかった」、「仕事に慣れず、周りに迷惑をかけてしまった」などの項目の順になっている。反省点の上位2項目が、コミュニケーション能力に関する内容であり、大学生活・授業も含めて学生時代を通してより自然に人との関係を作り上げていく能力を高めさせる必要性が大きいことを示している。当然のことながら、これからの就職活動や良き社会人となるために最も必要な力の一つであり、平素からコミュニケーション能力の向上に努力が必要である。それと同時にそれが自然な形でできるように大学の雰囲気を作っていく不断の努力の必要性にまでこの結果は及ぶものであろう。

このように、学生が研修を通して、自分をふり返り、どんな行動をすべきであったかに気づき、今後の勉強や行動に反映されればと願う。

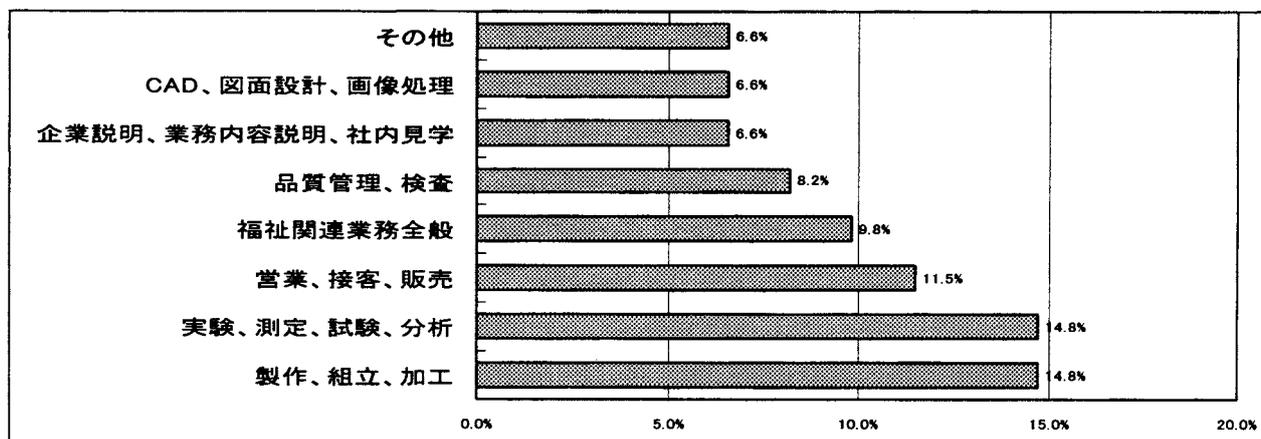


図3 実習内容の詳細

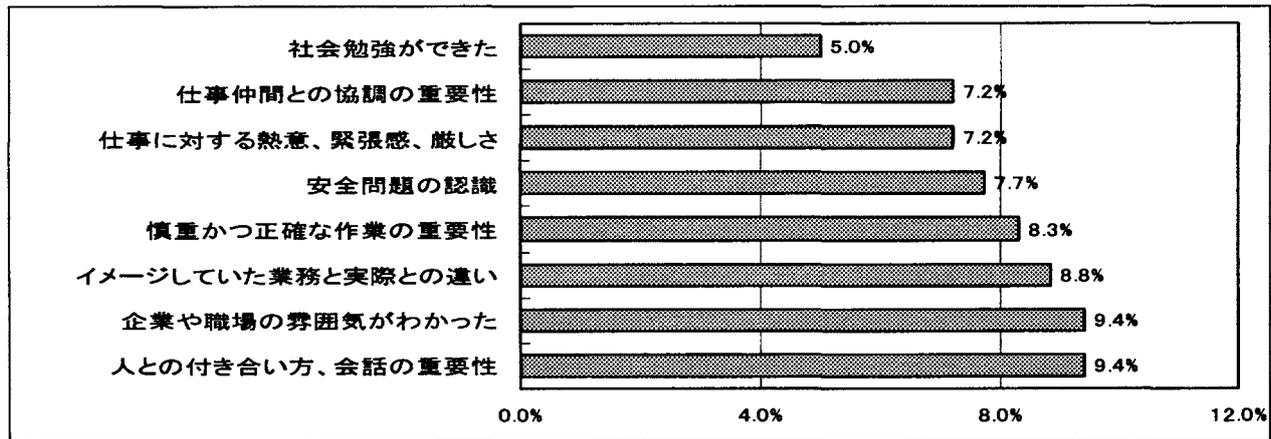


図4 実習によって得られた成果

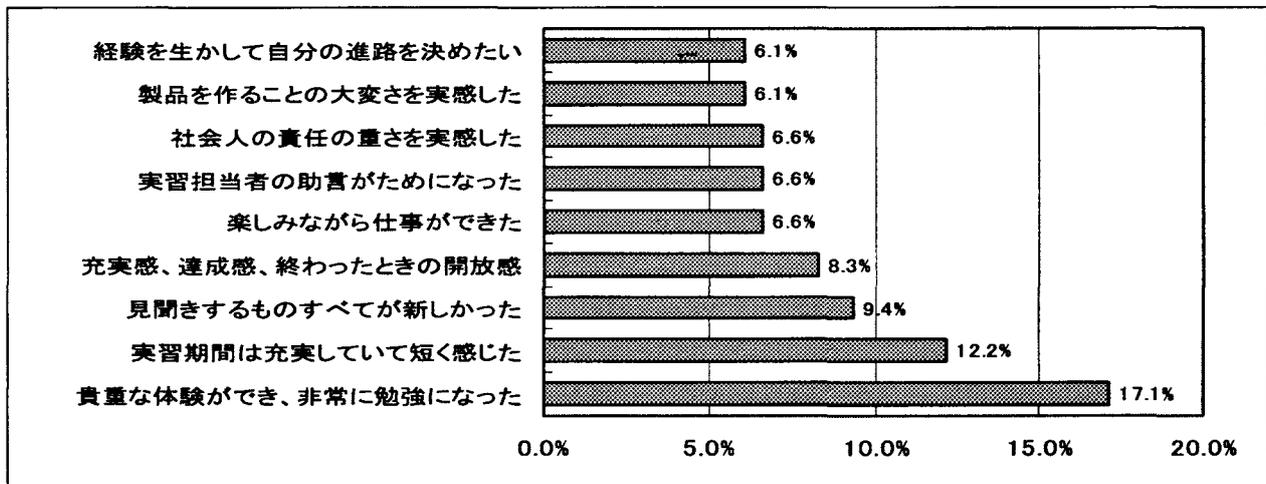


図5 実習に関する感想

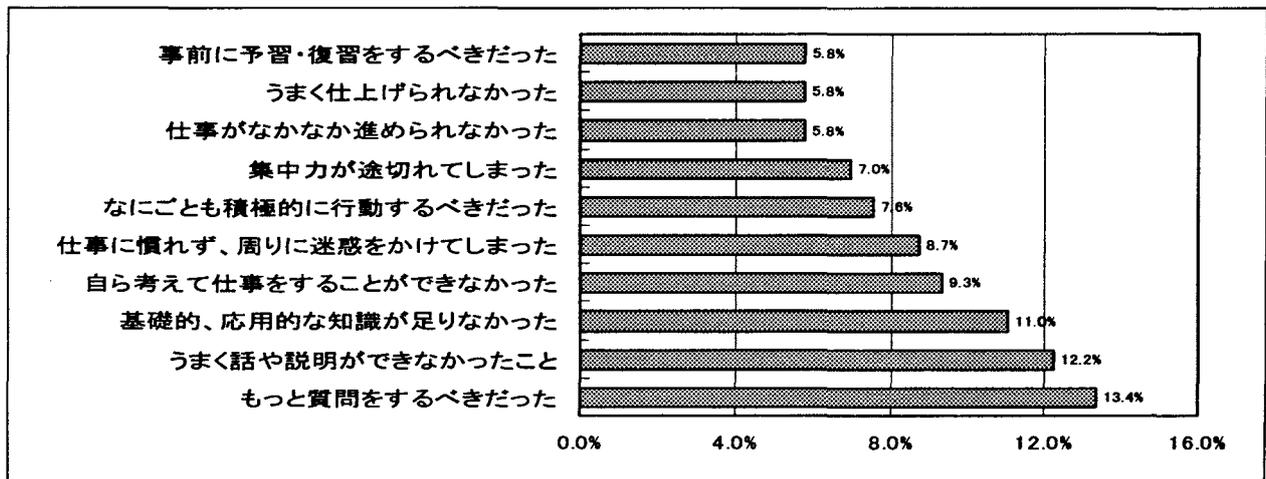


図6 実習に関する反省

8. インターンシップ実習の評価（受入企業，訪問教員）

インターンシップの終了後に、実施状況をできるだけ詳しく調査して問題点を把握するために、受入企業、参加学生および訪問教員を対象としたアンケート調査を実施した。その結果について以下に述べる。

8.1 受入企業による実習生の評価

単位認定のため、学生の実習状況の評価を行う必要がある。そのため企業の実習担当者に依頼して、個々の実習生の実習状況に関する評価を求めた。評価は10の評価項目

について5段階で評価するものであった。その結果(回答数 61)を表6に示す。昨年度と比較して、「積極性」の平均値が0.4下がる結果となったのが目立ち、残りの項目は「勤務態度」「協調性」が0.1上昇し、「実習内容理解」「仕事の正確さ」は0.1下がった。全体としては0.1の下降に留まった。なお、「創意工夫」の項目と「積極性」の項目で最低の「劣る」と評価された学生が1名いた。「積極性」が0.4も下がった理由は定かではないが、「勤務態度」「協調性」が上昇しているのとは逆傾向のため、様子を見守り、

一時的なものでないならば新たな改善策が必要かも知れない。

勤務状況は昨年と同じ値で、他の評価項目と比較しても特に良好（5段階で最高の「大変良い」という評価が70%以上）で、昨年同様本学のインターンシップ学生は基本的に時間の厳守などに対しては非常によく認識し実習していたことが伺える。

また、「創意工夫が見られたか」については、例年と同様であり、平均で3.6の評価に留まっている。「仕事の正確さ」、「創意工夫」、「積極性」などの評価項目に対しては、5段階で「普通」でと評価された割合が高くなり、受入企業側から改善を希望する点として具体的に指摘されている。実験実習やクラブ活動の中から、観察し考えて行動する応用力を養うことが必要で、そのためにも多くの経験値が大切となると考える。

表7には個人別の所見として述べられた主要なものを示している。おおむね「積極的な行動」が評価されたものの、一方で「笑顔がない」、「積極的な交流をしない」、「この分野に興味がない」、「居眠りが多かった」などの指摘を受けた学生もいた。事前研修でずいぶんと指導してきたつもりであるが、一時的な指導にはやはり限界がある。4年間の学生生活をとおしての働きかけや、指導にさらなる工夫が必要であると考え。

8.2 受入企業によるインターンシップの評価

受入企業担当者によるインターンシップに関する評価結果を図7に示した。「実習生の態度や状況について」、「インターンシップ全般に関して」のいずれの評価も、約90%の回答が適切あるいはほぼ適切という結果となった。しかし、「実習生の実習内容は満足すべきものであったか」については、やや不適切、不適切の回答が12%となっており、昨年より7%減少し改善された。しかしこの結果は依

然として注意していかなければならない。来年度に向けた反省事項である。

「インターンシップの目的」に関して、受入企業からの回答数の多かった上位3項目は、①学生の勤労観・職業観の育成、②企業と学生の相互理解、③産学連携による人材育成、であった。これは昨年と変わっていない。また、「来年以降実施にあたっての留意点、改善を要する点」に対する回答数の多かった上位3項目は、①学生の希望とのマッチング、②学生の意欲や積極性の向上、③実習内容の打ち合わせ、昨年と①と②が入れ替わった。これらを踏まえて来年度以降のインターンシップを計画していくことが必要である。

8.4 実習先訪問担当教員の報告

単位認定のために、学生の実習状況を調査して大学として評価をする必要があるので、本年も各企業へ担当教員が訪問し、企業側の受け入れ担当者のほか実習生本人とも面談した。実習先企業を訪問した担当教員の報告をもとに、グラフにまとめたのが図9および図10である。昨年同様、学生がまじめに意欲的に実習に取り組んでいたという感想が高い結果となった。

一方、訪問教員による企業の実習内容、プログラム、指導状況に対する評価は、80%以上が「満足」あるいは「ほぼ満足」という結果となった(図10)。テーマの設定から、きめ細かな指導がおこなわれていることが評価されたものとする。極めて少数ではあったが、実習生の受け入れに不慣れなため戸惑っている企業が見られた、あるいは実習内容がアルバイト的でインターンシップの実習としてはたして適切であるのか疑問が残る、との意見もあった。このような課題へのサポートをどのようにしていくのか検討が必要である。

表6 インターンシップ実習生に対する個人別評価（5段階評価、回答数61）

評価項目	評点					平均値
	大変良い	やや良い	普通	やや劣る	劣る	
	5	4	3	2	1	
勤務状況(欠勤、遅刻、早退などの状況)はいかがでしたか?	42 69%	8 13%	10 16%	1 2%	0 0%	4.5
勤務態度(言葉遣い、挨拶、返事など)はいかがでしたか?	26 43%	19 31%	11 18%	5 8%	0 0%	4.1
実習内容はよく理解しましたか?	16 26%	34 56%	9 15%	2 3%	0 0%	4.0
仕事において、よく実行し、行動し、努力しましたか?	20 33%	28 46%	11 18%	2 3%	0 0%	4.1
仕事は正確で良い結果が出ましたか?	15 25%	31 51%	13 21%	2 3%	0 0%	4.0
創意工夫の姿勢は見られましたか?	7 11%	25 41%	25 41%	3 5%	1 2%	3.6
仕事に対する積極性はいかがでしたか?	15 25%	26 43%	17 28%	2 3%	1 2%	3.6
責任感を持っていましたか?	18 30%	28 46%	13 21%	2 3%	0 0%	4.0
協調性はいかがでしたか?	17 28%	29 48%	12 20%	3 5%	0 0%	4.0

全体評価	15	36	8	2	0	4.0
	25%	59%	13%	3%	0%	

表7 インターンシップ実習生に対する個人別評価の所見

<p><積極的な行動が評価された></p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に業務に関わっており、学ぶ姿勢が良かったと思います。プレゼンテーションも良くまとまっており、発表も分かりやすく良かったと思います。 ・発言も多く、リーダー的な役割を進んで引き受けてくれました。 ・こちらが想定していなかった独創的な発想・答えをたくさん頂き、こちらも大変勉強になりました。 ・大変野生的で何事にも果敢に挑戦するタイプと感じました。 ・積極的に業務に関わり、まとめのプレゼンテーションでは、短時間で資料を作成し、プレゼンテーションの内容も良かった。 ・分からないことがあれば必ず質問し、理解した上で仕事に臨む姿勢に誠意を感じました。コミュニケーションも良くとれていました。 ・日を重ねるごとに慣れてきた様で笑顔で店頭に立って頂けました。指示した事は正確にこなせるので、簡単な仕事を一人で任せると言う事もできました。お話をする時に、目を見て笑顔でいる姿勢が大変好印象でした。
<p><問題点の指摘があった></p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遣い等については直すべき点もいくつかありました（学生言葉等）。 ・研修に対する積極性がもう少しあると良かった（質問やグループワーク時） ・仕事上の人間同士の会話で重要なことは、大きな声ではっきり話すことです。 ・緊張していたせいか、お客様に接する時笑顔があまり出なかったのが残念です。 ・本当は「何でこの仕事をしなければいけないのか」「この仕事をしていて何につながるのか」と考えながら行動してほしかったなと思います。 ・分からないところは、もっと自分から聞くなりして欲しいところもあった。 ・与えた課題に対する評価としてはまだまだあまい所が多々あったので“大変良い”とは言えません。短所としては、自分で物事をよく考えるということが不足がちであった。 ・もっと仕事を遊べる大胆さがあってほしいなと思いました。 ・この分野にはあまり興味が無い様でした。午後は居眠りが多かったです。笑顔もみられなかった。

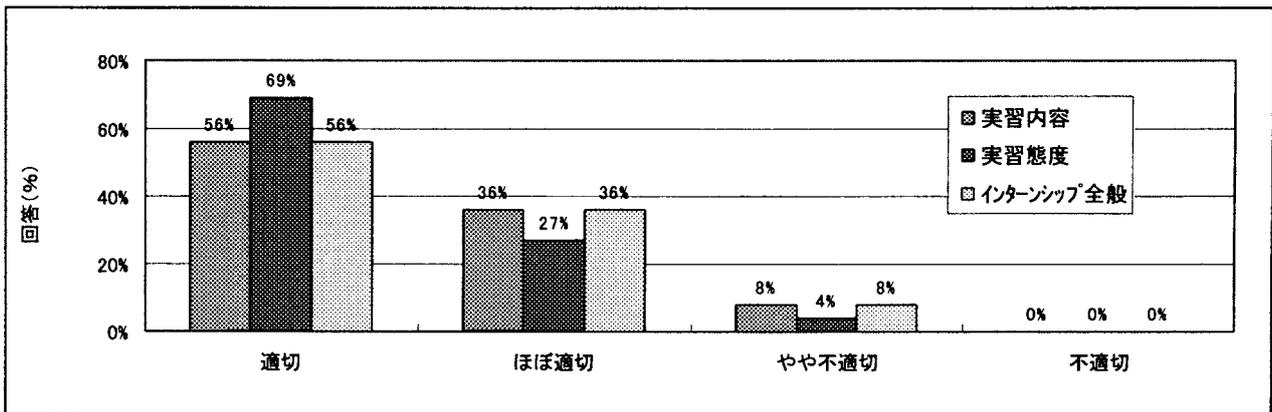


図7 受入企業担当者によるインターンシップへの評価

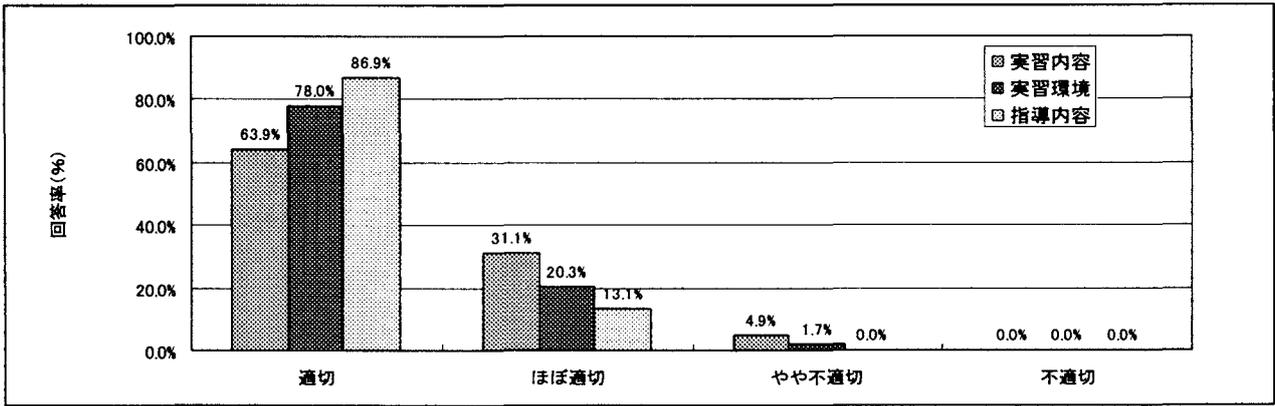


図8 参加学生による実習内容、環境、指導内容への満足度

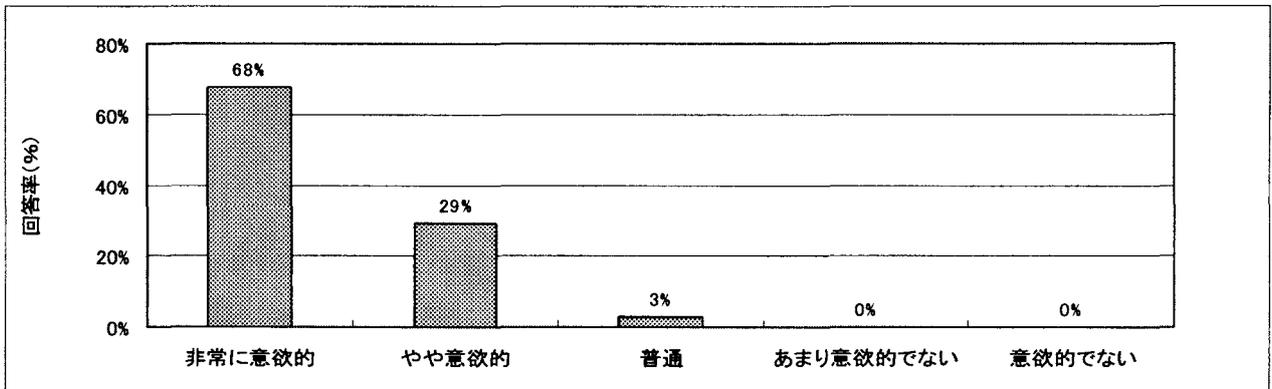
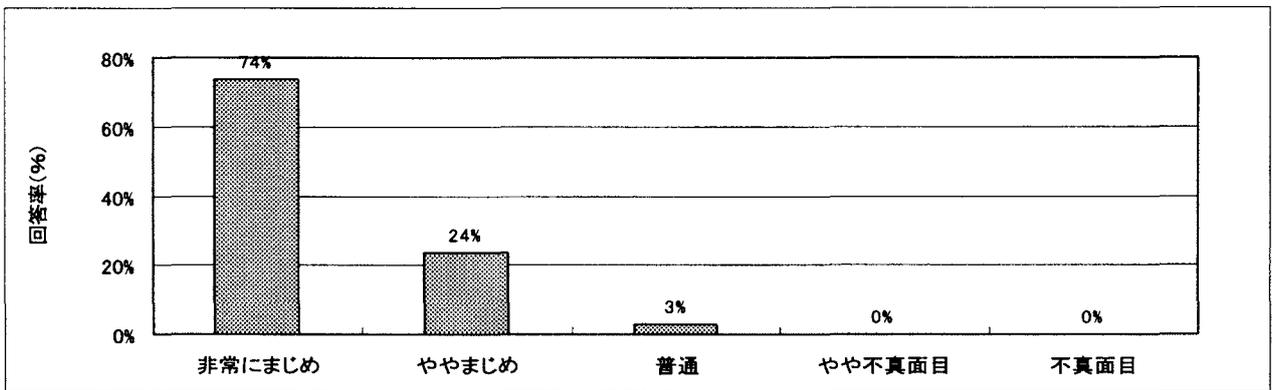


図9 実習生に対する訪問教員の評価①

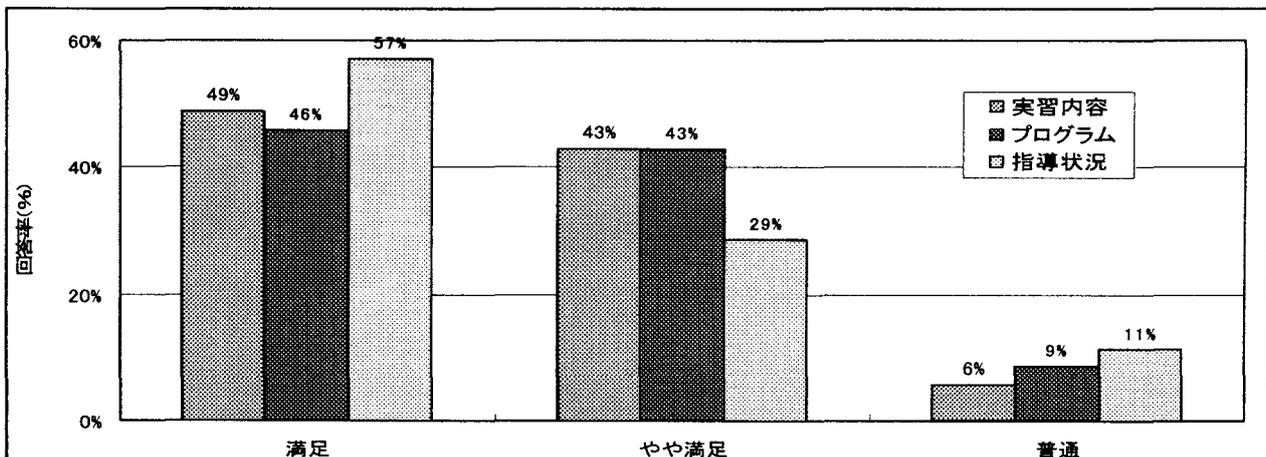


図10 訪問教員の受入事業所への評価と要望

9. 平成 21 年度インターンシップのまとめ

冒頭に述べた本年度インターンシップの以下の取り組みについて、検証したい。

- ①企業側への受入希望調査は昨年度同様 4 月とした
- ②企業からの全ての申し込み作業、実習報告書および評価作業などもネット上で入力可能とした
- ③学生からの提出書類を主にキャリア支援課で行い、挨拶や言葉遣いの指導を行った

の事業を取り入れた。5 月 13 日から 4 回にわたり事前研修会を開催し、基礎的必要事項や心構えなどを説明した。

9.1 事前研修の成果と評価

第 1 回の事前研修参加者 110 名の内 63 名が企業実習を行ったことから、実習参加率は 57.3% となり、昨年の 42.9%、一昨年の 55.1% と比較して平均的な参加率であった。従って今後の努力目標として参加率の向上に努めるべきである。

今年の大きな特色として、図 2 に示すように物質生命科学科の参加学生数が昨年の 6 名から 26 名へと前年の約 4 倍に達したことである。学生の多くは、化学系・バイオ系・食品系の実習内容を希望したため、一部の企業への応募が集中したので、これらの対策を考慮すべき時期にきていると考えられる。

本学でインターンシップを実施した 10 年間の受入企業数、実際に実習を実施した企業の数、募集学生数、参加学生数、単位取得学生数の変化を図 1 に示した。本年度は企業を取り巻く不況の影響により、実習生の受入れが困難な事業所が多く、近年の状況を大幅に下回った。

前述のように、第 1 回事前研修ではインターンシップの概要とインターンシップに参加する上での考え方や心構え、履修等についての説明、第 2 回事前研修では「社会人とは—仕事・働くことの意義—」についての講義、第 3 回目は昨年度の実習生である 3 名の 4 年生による体験談を話してもらった。第 4 回目は実習直前の注意事項の説明を行い、「意欲と積極性を高める」ことに関してできるだけ注意を喚起した。

このように、4 回にわたる事前研修によって、明確な目的意識を持った学生を実習先に送ったつもりであるが、表 6 の「インターンシップ実習生に対する個人評価」では、全体評価が前年度の 4.1 から 4.0 に下がり、教育効果に問題があったと考えられる。特に一番評価の低かった「創意工夫」「積極性」は座学からでは学びきれないものがあるかもしれない。学生個人の資質に負うものがあり、短期間の研修では効果がでないと考えられるので、実習や授業などで教育効果を高める努力が必要と思われる。

また、学校生活の人間関係や授業における消極的な態度が、反省点として反映してしまったのが図 6 である。その中でも「もっと質問をするべきだった」が 13.4% と最多の回答となっている。次いで「うまく話や説明ができなかった」、「基礎的、応用的な知識が足りなかった」、「自ら考えて仕事をするのができなかった」、「仕事に慣れず、周りに迷惑をかけてしまった」などの項目の順になっている。反省点の上位 2 項目が、コミュニケーション能力に関する内容であり、大学生生活・授業も含めて学生時代を通してより自然に人との関係を作り上げていく能力を高めさせる必要性が大きいことを示している。

このようにインターンシップへの取り組みに関する研修効果は、日頃の大学での生活態度に大きく依存していることから、研修による特化した効果を求めることは難しいと思われる。

9.2 インターンシップ実習の課題

大半の学生は当初希望していなかった実習内容を行う

こととなったが、それでも大半の学生が実習に参加したのは、就業体験を通じて働くことの意義を感じたいという意気込みが強かったものと考えられる。なお、実習先の業種が偏っており、希望する分野を活かせる実習を体験したかったという意見は本年度も多く、継続して解決すべき課題となっている。

学生のモチベーションを維持することは難しいが、毎月の就職ガイダンスやインターンシップ事前研修の量や質を考慮すると、学生自身が消化不良をおこし、集中力を欠いていると想像できる。今後は、学生への教育効果を見極める時間と評価方法を検討すべきかと思われ、学生の習熟度に合わせたガイダンスや研修の進行が求められているのではないかと考えられる。

10. 謝辞

本年度のインターンシップ・プログラムを実施するにあたり、ご協力をいただいた企業およびその担当者の皆さん、そして報告会で発表をご担当いただいた皆さんに心から感謝致します。

参考文献

- 1) 文部省編, インターンシップ・ガイドブック, インターンシップの円滑な導入と運用のために, 1998.
- 2) 丹羽昌平 他, インターンシップで学生は何を得たか?—平成 14 年度インターンシップ実施報告—, 静岡理工科大学紀要, 第 11 巻, 2003, 281—303.
- 3) 丹羽昌平 他, インターンシップ実施 5 年間のまとめとこれからの展望—平成 15 年度インターンシップ実施報告—, 静岡理工科大学紀要, 第 12 巻, 2004, 299—320.
- 4) 丹羽昌平 他, 平成 16 年度インターンシップ実施報告—インターンシップの教育効果の向上のために—, 静岡理工科大学紀要, 第 13 巻, 2005, 95—104.
- 5) 丹羽昌平 他, 地域社会との連携による実習体験教育, 工学教育, 第 53 巻第 4 号, 2005, 23—29.
- 6) 惣田昱夫 他, 平成 17 年度インターンシップ実施報告—事前教育の充実による教育効果の向上—, 静岡理工科大学紀要, 第 14 巻, 2006, 163—174.
- 7) 富田寿人 他, 平成 18 年度インターンシップ実施報告—キャリア教育メイン・プログラムを目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第 15 巻, 2007, 127—139.
- 8) 富田寿人 他, 平成 19 年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第 16 巻, 2008, 117—129.
- 9) 富田寿人 他, 平成 20 年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第 17 巻, 2009, 163—174.